



「伝 統芸能が多く残っている洞爺湖町で、気軽に笛を奏しめる人を増やしていきたい」と話す角田弥生さんは、滋賀県出身で結婚を機に洞爺



地域おこし協力隊が
出会った素敵な人紹介

伝統芸能の継承 横笛奏者

角 田 弥 生 さん
(入1区)

湖町へ移住。横笛を吹き出したのは約10年前です。子供が所属していた「虻田もちつきの会」にテレビの取材があり、当時はテープを使っ

て流していた「もちつき囃子」を、「太鼓と笛と鐘と三味線の生演奏でやってみよう」ということになり、角田さんは、学生時代にブラスバンドでクラリネットをやっていた関係から自然と横笛に決まり、他の楽器もたまたま母親メンバーで出来る人がいたことで、生演奏が実現しました。このことが、横笛との長い付き合いの始まりとなりました。

その後、ママ友3人で笛と三味線と琴のグループ「和三盆」を結成(現在は笛と琴の2人体制)。町内外のお祭りやイベントにも多数出演することとなり、横笛の魅力にどんどんはまっています。

「横笛は、お祭りで吹く楽器なので難しい楽器ではありません。練習すれば誰でもすぐに吹けるようになります」が魅力のひとつです」
(安嶋)

今年の春分の日には横笛の師匠である佐藤ぶん太さんを呼んで虻田神社にてコンサートを行い、翌日にはぶん太さん指導による横笛ワークショップを開催しました。

その後「横笛雛の会」という集まりを作り、月に2回、練習会を実施。8月の虻田神社例大祭ではぶん太さんが洞爺湖町をイメージして制作した「龍の背」の生演奏も行いました。

「横笛を始めた10年前は、誰も仲間がいなくて苦労しました。今はこうしてみんなで吹けることが嬉しいですよ」と広がる仲間の輪に喜びをかくせません。

今後は「横笛雛の会」の練習を定期的に続けていき、まちの人にも横笛を周知していきたいと語る角田さん。

東奔西走

1年は早いもので、今年も夏祭りにビアガーデン、盆踊りと盛夏を楽しむイベントが終わり、風は確実に秋の気配を感じさせるものになってきました。

ほっとするまもなく、ツーデーマーチや収穫祭、文化祭など秋を彩るイベントが始まります。広報をやっているとイベントで季節を感じさせてくれます。(H.O)

今月のワンショット



虻田神社祭典
神輿を担ぎ階段をかけ上る氏子たち

人口と世帯の動き 7月31日現在(先月比)

男	4,285人	(△11)
女	4,958人	(+ 1)
計	9,243人	(△10)
世帯	5,003世帯	(+ 4)